

平成30年度第1回
長柄町総合教育会議 会議録



長 柄 町

平成30年度第1回長柄町総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成30年4月24日(火)
開会 13時30分 閉会 14時38分
2. 場 所 長柄町役場 2階 庁議室
3. 出席者 長柄町 町長 清田 勝利
長柄町教育委員会 職務代理者 加藤 士郎
教育委員 大野 正巳
教育委員 高橋 智恵子
教育委員 窪木 尚
教育長 佐川 和弘

(事務局)

総務課長 蒔田 功
学校教育課長(給食センター所長) 豊田 武文
生涯学習課長(公民館長) 松本 昌久
総務課主査(行政管財係長) 関 英司
学校教育課主査(学校教育係長) 牧野 正幸
書記 総務課主事 白井 雄大

4. 協議事項 (1) 近年の出生状況と今後の小学校の在り方について
(2) 公民館建設事業の経過と今後の事業計画について
5. 傍聴人 無し

(13時30分 開会)

町長あいさつ

議長選出 総合教育会議設置要綱第4条第1項により、町長が議長となる。

協議事項1 近年の出生状況と今後の小学校の在り方について

牧野主査：協議事項について説明

清田町長：本案件については、町第4回議会においても三枝議員が学校統合に関する町の見解について一般質問を行っている。

町としては複式学級を避ける学校運営を視野に入れる方向とし、教育委員会と共通理解をもった上で方向性を決めていきたいと考えている。本日は以上の点を踏まえて委員各位には議論いた

だきたい。

大野委員：小学校の児童数において、長柄小学区についてはまだ問題のない数値と言える。しかし日吉小学区については、児童数の減少が目立っており、危機感を感じる。

学校の機能は、社会性の育成、学力、体力の向上であると考えるが、児童数の減少により人間関係の固定化や、競争心の欠如などにより、前述の機能が低下することが考えられる。

また、学校運営に要する経費を考えた時に、1校あたりの負担を考え、税負担が高くならないようにしなければならないと考える。

以上のことから複式学級は望ましくないと考える。

高橋委員：入学予定者数は今後、増える事より減ってしまう可能性の方が高い。学校は社会を学ぶ大切な環境であり、どのような環境が子供たちのためになるのか考えながら判断しなければならない。遅かれ早かれ、統合は必要となってくる。先が見えている中でどのように行動していくか、あらかじめ計画を練っていかなければならないと思う。

ある教員から競争心が無いとの意見を言われたことがある。原因が少人数であるとするなら問題の解消を図らなければならないと考える。

清田町長：行政論、教育論に分かれてくる部分もある。双方が混同しないように議論を進めなければならない。

教育長としてはどのように考えているか。

佐川教育長：こちらの考えとしては、町内の0歳児の人数が16人を割ってしまうような状況になった場合、対応の必要性があると考えている。

世間では小中一貫教育が流行っているが、仮に当町でこども園から中学校まで一貫教育とし、同じ集団で生活するよりも、小学校から中学校に進級する際に新たな集団との交流・入替があった場合の方が、環境の変化で教育上の向上が図られる部分もあると考えている。

多人数での生活となれば、先ほど話があったように競争が生まれ、切磋琢磨により成長が見込める部分もあると考えるが、学習塾のように少人数で学習集団を形成した方が児童一人一人の状況を把握できるようになるため一定の効果を見込める場合もある。ただしこれは教員の資質により差が生まれてしまうこと

があるため、一概には良いとは言えない。

大野委員：少人数学級のメリットについては、教員に時間があれば効果があるかもしれない。しかし今は昔と違い、時間も教員も足りていない。教員が時間を割けるのであれば少人数学級も生きてくると思う。

清田町長：学校教育課長としては、少人数学級が多人数学級に社会性、体力の向上で負けないようにするにはどのように方法をとればよいと考えているか。

豊田課長：私を感じるのは、多人数、少人数という議論もあるが男女比に関しても問題があると考え。どちらかが極端に少ない場合、集団形成という場面で問題が起きてくると思う。
少人数で多人数の学級に負けないようにと言う点については、教員の差も出てしまうとは思いますが、やり方によって解消できると考えている。

大野委員：男女のバランスは学級の社会性に大きな影響を与えると考える。

佐川教育長：男女の比率に顕著な変化が出始めたのはここ数年である。

先ほど、向上心の欠如について話があったが、昔からさほど変化はないように感じる。地域性が要因ではないだろうか。

窪木委員：教育長の意見に同意である。

親などの大人が子供に与える影響は多大であり、地域の方が及ぼす影響は大きいと思う。

現在、長南町の小学校との交流キャンプを行っていると思うが、そういった他地域間での交流が非常に有効だと思う。

清田町長：陸上競技大会など学校間での交流、競争は非常に有効だと思う。

本町についてはバスの利用も可能なため、積極的に交流の手段として利用すべきだと考える。

牧野主査：多数の意見をいただきありがとうございます。

本日の会議で方針を決定するという訳ではない。毎年同様の資料を用意するので、しかるべきタイミングで対応がとれるよう情報共有をしていきたいと考える。

協議事項 2 公民館建設事業の経過と今後の事業計画について

松本課長：協議事項について説明

高橋委員：建設地は旧昭栄中学校跡地で確定なのか。

松本課長：確定である。

大野委員：建設にあたり要望がある。新たな箱物を作る際に、それ単体の機能だけを考えずに、複合的な利用も目的として計画を進めていただきたい。例えば学童などが挙げられる。

佐川教育長：設計のやり直しとなった場合でも、前回計画時に出てきた要望とそこまで大きな変化は出ないものとする。全て同じではないとは思いますが、できる限り使用者の意見に重きを置きながら設計を進めていきたい。

清田町長：現状、議会と執行部で計画を進めている状況であり、大野委員の意見は非常に貴重である。

松本課長はどうか。

松本課長：教育委員会の方々のご意見をいただくことで計画の方向性も決めやすくなる。

清田町長：現在、工事の業者選択や予算面でも課題が多い。

しかし、複合的施設であり、避難所としての活用や地域の寄合場、サークル活用の拠点となりうるような施設となるよう計画を進めていきたいと考える。

松本課長：毎月の定例会で意見をいただきながら計画を進めていきたいと考えている。

清田町長：以上ですべての議題の議論が終了したので閉会とする。

(14時38分 閉会)